

ヒトiPS細胞由来モデル細胞(肝・神経・心筋)の作製 及びモデル細胞を用いた薬剤毒性評価技術の構築

背景と課題

- 動物実験によるスクリーニングでは「種差の壁」の限界を超えられない。
- iPS細胞はあらゆる細胞に分化でき倫理上の問題点も少ないため新規*in vitro* 毒性評価系開発のための最適な細胞ソース！
- 評価系を構築できても、**新薬承認審査基準**に結びつかなければ新薬開発につながらない

目標

- ◎ヒトiPS細胞を用いて肝・神経・心筋のモデル細胞を作製するとともに、モデル細胞を用いて**薬剤毒性評価技術を開発し、創薬基盤技術を構築する。**
- 本研究成果を元に将来**毒性評価ガイドライン(案)**を作成し、薬事法上の新薬承認 審査基準に反映させる。
- 世界の主要な新薬開発国が参加するICH(日米EU医薬品規制調和国際会議)の**グローバルスタンダード**に発展させる。

